

鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和7年度第2回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和8年2月24日（火）13:00～14:37
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 市長室
議題	2. 議題 (1) 第Ⅲ期鳥羽市教育大綱について (2) 第3期鳥羽市教育ビジョンについて (3) 学校におけるいじめ・不登校の実態について (4) 中学校部活動の地域移行について 3. その他
会議資料	資料1：第Ⅲ期鳥羽市教育大綱（最終案） 資料2：第3期鳥羽市教育ビジョン（最終案） 資料3：いじめ問題に係る鳥羽市の状況（R7年度） 資料4：不登校児童生徒数・HAR P通級児童生徒数（R7年度） 資料5：令和8年度鳥羽市の中学校部活動地域展開
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 小竹篤、教育長 岩本和也 教育委員：中村和久、奥村楠治、中島幸代、杉本友季
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市教育委員会] 山本総務課長、小林学校教育課長、中村生涯学習課長、 寺本総務課長補佐、天田係長 [鳥羽市総務課] 勢力課長、栗原課長補佐
<p>1. あいさつ（市長）</p> <p>2. 議題</p> <p>（1）第Ⅲ期鳥羽市教育大綱について （教育委員会総務課長より資料1について説明） ○質問・意見なし</p> <p>（2）第3期鳥羽市教育ビジョンについて （教育委員会総務課長より資料2について説明） ○教育委員 「グローバル化の進展」を示すデータとして、コロナ禍で激減した令和2年を比較対象とするのは不 適切ではないか。平常時と比較すべき。 ○教委総務課長 確認し、適切なデータとの比較を検討します。 ○教育委員 子供の体力や健康状態（視力、歯の状態など）のデータを重視し、公表すべき。また、教員の体育実 技指導力が低下している懸念があるため、研修等で補う必要がある。 ○教育長 健康データは県へ報告し公表されるため、経年比較し注視していきます。</p> <p>（3）学校におけるいじめ・不登校の実態について （教育委員会学校教育課長より資料3・4について説明） ○市長 支援体制（特別支援学級、HAR P、校内教育支援センターなど）が複雑化しているため、市民に分</p>	

かりやすく図示して広報してほしい。

○教育長

周知方法を検討します。

○市長

校内教育支援センターの人員配置はどうなるか。

○教育長

国・県の補助を活用し、支援員を各校（鳥羽小学校、鳥羽中央中学校）1名配置する予定です。

○教育委員

不登校やいじめは重大事案になる前のケアが重要。また、卒業後の引きこもり支援も必要である。

○学校教育課長

「ホップ会議（子供）」から「ステップ会議（大人）」へ情報を引き継ぎ、福祉部門と連携して切れ目のない支援を行っていきます。

○教育委員

幼児期の自己肯定感や集中力を小中学校へつなげる取り組みが重要と考える。

○教育長

文科省の「架け橋プログラム」に着手し、幼保小の連携を強化する。

（４）中学校部活動の地域移行について

（教育委員会生涯学習課長より資料5について説明）

○教育委員

教員の働き方改革だけでなく、「子供たちにとって良い環境かどうか」を最優先に進めてほしい。

○教育委員

地域移行によって活動を辞めてしまう子供が出ないように、保護者や地域クラブと協力体制を構築すべき。

○教育長

子供たちの活動環境の充実を第一に進める。

3. その他

○教育委員

幼稚園はスクールバスで園外活動ができるが、保育所はできないという格差がある。

○市長

認定こども園化を見据えつつ、予算化を検討するよう伝えている。

○教育委員

教職員の働き方改革として、学校への電話対応の一元化（システム化）を検討してほしい。

○教育長

保護者との関係性維持の観点から慎重さも必要だが、現場の疲弊もあるため検討します。

○教育委員

学校で子供が「指示待ち」になっている印象がある。自主性を育む教育をお願いしたい。

○教育委員

挨拶やルール遵守など、市民としての「公民的資質」を育てる視点を入れてほしい。